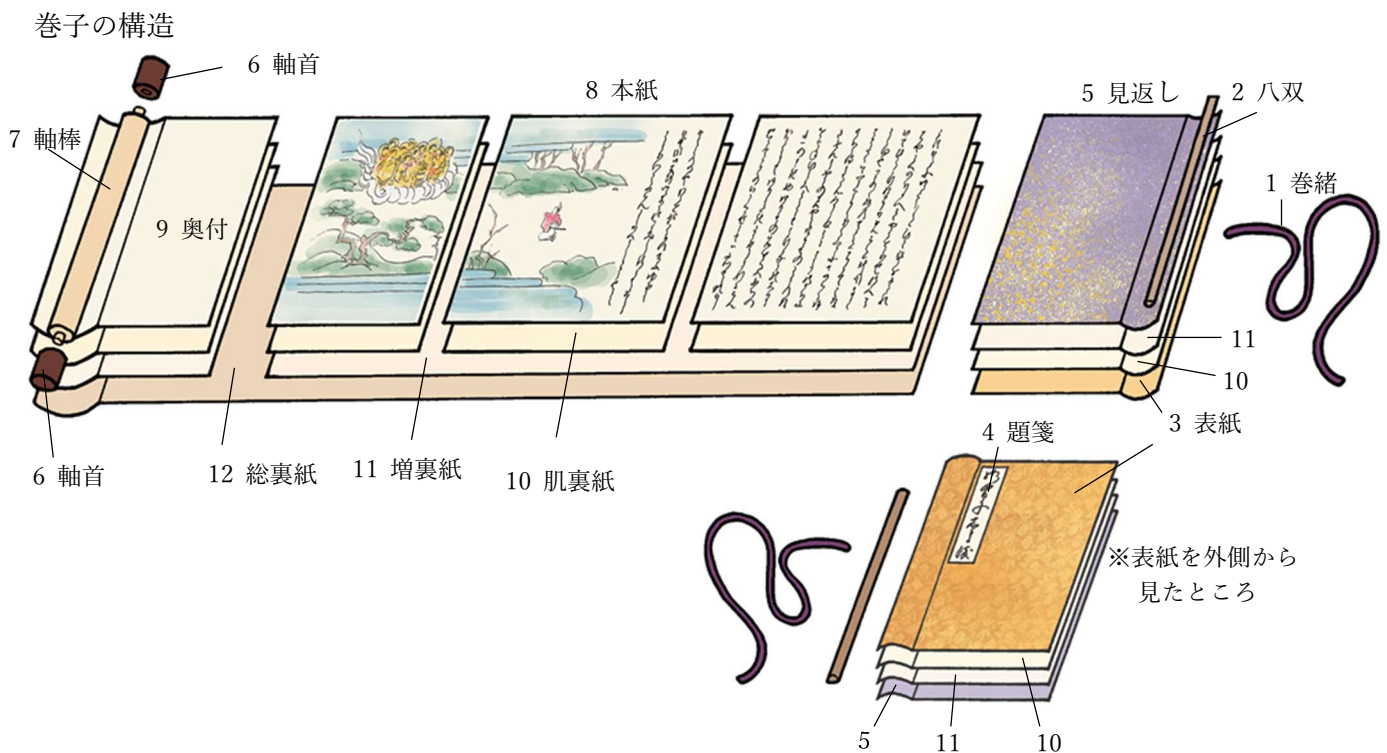


卷子の構造と材料



※裏打ちの回数は、本紙や表紙、見返しの厚さや柔らかさ等によって異なる。経典等は裏打ちが施されていないものが多い。

卷子の材料

	名 称	写真・図	解 説
1	まきひも まきお 巻紐/巻緒		卷子を巻き止める紐。表紙のめくれや卷子が緩むのを防ぐために、八双に取り付けられる。材料は主に組紐や織紐が用いられ、様々な色があり表紙に合うものが選ばれる。紐の先にはこはぜ（角や真鍮等で作った爪型の具）が付けられたものもある。
2	はっそう はつそう 八双/発装		表紙の端を固定するために、表紙の端を折り返した中に入れられる。素材は主に竹で、他に木や、大型の卷子では重みのある真鍮等の金属が用いられることもある。形状は半円柱形が多いが、厚みが薄い平板なものもある。
3	ひょうし 表紙		卷子を巻いた際に外側になる部分で、本紙の幅より若干大きめになっており、本紙を保護する役割と装飾を兼ねている。材料は様々な和紙や裂（無地裂、緞子（どんす）、金欄（きんらん）等）が使用される。本紙の内容に合うものが選ばれる。
4	だいせん だいせん 題箋/題箋		外題を書いて表紙の端に貼る短冊形の紙片。

5	みかえし 見返し		表紙の裏側に貼られた紙。無地や砂子等の装飾が施されたものもある。巻子を広げた際に最初に目にするため、本紙の内容を想起させるような装飾が施されたものもある。
6	じくしゆ じくさき 軸首/軸先		軸端の保護と装飾を兼ねて取付けられる。素材は、木（紫檀・黒檀）・象牙・角・水晶・金属（金メッキ）等が使用される。形状は円柱形の切軸や切軸の小口に同心円状の溝を彫った印可（いんか）軸、先端が広がった撥（ばち）軸等、様々な形状や大きさがある。軸首の裏側には穴が穿たれており、軸棒の両端の突起と合わせて膠等で接着する。
7	じくぼう 軸棒	 切り合わせ軸	巻子の芯になる細い棒で、奥付に巻き込むように取り付けられる。素材は杉や檜木が用いられることが多い。太さは様々なものがある。軸棒の両端は、軸首の裏側の穴に合わせて丸い突起を削り出して使用するが、先端を削らず小口どしを接着した簡易なものもある。「切り合わせ軸」といわれる、2本の軸棒の片方を削ぎ、削いだ部分を合わせて紙を巻いて、軸棒の反りを防いだり長さを調整できるようにしたものもある。
8	ほんし 本紙		紙や絹が用いられ、本紙の材料に応じ、紙本、絹本などと呼ばれる。
9	おくづけ 奥付		本紙の後ろ、巻末に付けられる紙。
10	はだらかみ 肌裏紙		本紙や表紙裂等を支えるために最初に裏打ちする際に使用される和紙で、薄美濃紙が多く用いられる。薄く柔軟だが丈夫な楮紙。糊はしっかり接着するように新糊（生麩糊）が用いられる。全紙の大きさ 約 90 cm×60 cm
11	ましうらかみ 増裏紙		肌裏打ちの次に行う裏打ちに使用される和紙で、美栖（みす）紙が用いられる。紙繊維に胡粉を混ぜて漉き、压榨せずに乾燥させた柔らかい楮紙。補強や厚み調整、柔軟性を持たせるために使用する。糊は巻子が柔らかく仕上がるように古糊（生麩糊を10年程度寝かせた糊）が用いられる。 全紙の大きさ 約 65 cm×25 cm
12	そううらかみ 総裏紙		本紙を継ぎ合わせて一体化させた後、裏面の仕上げとなる最後の裏打ちに使用される和紙で、特定のものは無い。巻子の裏側になる部分。表面が平滑な雁皮入りの楮紙等、様々な和紙が用いられる。糊は巻子が柔らかく仕上がるように増裏打ちと同じ古糊が用いられる。

参考文献 「表具の事典」編集・発行 協同組合京都表装協会

「装潢文化財の保存修理 東洋絵画・書籍修理の現在」編集・発行 国宝修理装潢師連盟